

手におへない

或る砂力書は

か子9お能坂

神山 3 聖

「一死刑囚の人生懺悔」と題して、浦上三造の告白体手記が小雑誌に載った。雑誌といふよりも貧弱なパンフレットに近いこの定期刊行物は、囚人保護につとめる佛教團體から出てゐるもので、教誨師が如何に極悪非道な人間を改悟せしめたかといふ手帳語を満載するた

~~め~~の機案であるやうに見える。

浦上三造は飲んだくれの父親と、頭がわるくて残忍な性質に富む兄とを殺した。重い尊族殺人ではあったが、情状には酌量すべき餘地があった。若し三造に改悛の情が顯著であつたならば、或は死を減せられて無期にはなつたかも知れない。しかし三造は改悛の迹を皆かも示さなかつた。三造は自分がかゝるいとは、~~あつた~~あつた。三造は自分

れた者がわるいのだ。わるいからこゝろがねえ